

4段階評価： 4 期待以上 3 ほぼ期待どおり 2 やや期待を下回る 1 改善を要する

学校経営 ビジョン	「幸せ」いっぱい 児童が「幸せ」	みんなの学校 教師が「幸せ」	保護者・地域が「幸せ」
--------------	---------------------	-------------------	-------------

項目	本年度の重点目標と 目標達成のための手段	結果の考察・分析及び改善対策等	自己 評価	関係者 評価	学校関係者評価のコメント
知 育	重点目標： 学力向上の推進 手段： 1 一人一人に応じたきめ 細かな指導の充実と「わか る・できる授業」づくり	1について ○小規模特認校制度を利用して転入した児童に対して、算数の時間 に校長が未履修内容も指導しながら、学習内容を進める取り出し 指導を行った。 ○複式解消による指導により、児童の個性に応じた指導方法を工夫 し、個に応じた指導ができた。 ○タブレットを活用することで、児童の教科に対する意欲が向上する とともに、活用能力も向上した。また、電子黒板を活用したことで、 授業の効率化と児童の理解力向上を図ることができた。 ○小林市の ICT サポーターの支援により、道徳の遠隔授業やタブレ ット活用の授業がスムーズにできた。 ●朝の時間などに行うフロンティア学習の内容及び情報モラル教育 の充実を図る必要がある。 ●個別指導をさらに計画的に充実させていきたい。	3	3	1について ○ タブレットの活用は、ますます進め てほしい。 ○ 転入生の学習の遅れなどの学習が指 導出来ており、安心しました。もっと もっと学校が楽しいなあと思えるとい いです。 4について ○ ノーメディア週間では、全くふれな いということは出来ない児童が多いと 思うので、時間の制限など決めて行う といいかなと思います。 ○ 小さい学校ならではのたくさんの人 にふれ合い、たくさんの行事などに参 加することが大変ありがたいと思っ ています。
	2 小中一貫教育(3校合同 研究)の推進と一人1研究 授業を通じた授業改善	2について ○一人1研究授業を行うことで指導の工夫や ICT の活用について考 えることができた。 ○11月2日に3校合同の研究公開を行い、道徳に関する研究の成果 として授業を見ていただくことができた。			
	3 キャリア教育の充実	3について ○コスモス科を確実に行き、多くの活動の中において、手話主導をは じめ小林市の人材を多く活用して授業を行うことができた。 ○生活科とコスモス科による低・高学年とかおる幼稚園との交流で は、児童が企画した遊びを一緒にいき、楽しく活動することができ た。			
	4 読書活動の推進	4について ○読み聞かせに18回来ていただき、たくさんの本と出会うことがで きた。 ○子どもたちが楽しみながら読書活動ができるよう読書ビンゴや福 袋など様々な取組がされており、積極的に図書室へ通う姿が見られ た。読書への意欲の向上を感じた。100冊以上借りた児童も1月 で4名と昨年度より増えた。 ●図書館の保護者開放・貸出がなかなか難しいと感じた。 ●ノーメディア週間に取り組み、意識は高まって週間中は時間の減少 が見られたが、通常はやはりメディアにふれる時間が多い。			
	5 家庭学習の充実	5について ○担任を中心に個に応じた課題を出し、確実に見届けを行った。 ○家庭学習チャレンジ週間を設定することで、児童が意識して計画 的に学習に取り組むようになった。			
徳 育	重点目標： 豊かな心の教育の推進 手段： 1 西小林中校区のきまり定 着100%と集団規律の徹 底	1について ○常時指導を行うことで、児童が常に意識して立腰や鉛筆の持ち方 に取り組むことができた。 ○全校集会や日々の指導で学習や生活のきまりを話すことで、規範 意識が高まってきている。 ○朝や帰るときのあいさつが立ち止まって一礼してできるようにな ってきた。【STA運動(先に立ち止まってあいさつ)の定着】	3	3	5について ○ 太鼓フェスティバルなどの参加は、 児童の自信につながると思うので、進 めてほしい。 ○ 幸ヶ丘太鼓はいつ見ても感動しま す。子どもたちの堂々とした姿、大き な大会にも真剣に取り組む姿、いつも 心を打たれます。 ○ 先生方の取組、作品投稿が子どもた ちの自信になっています。親もとても うれしいです。
	2 道徳教育の充実	2について ○3校で協力して研究公開を実施することができた。実践を通してお 互いを認め合う姿をさらに伸ばしていきたい。 ○道徳の指導方法を工夫し、児童が「考え、議論する」姿が見られた。			
	3 朝のボランティア活動の 活性化	3について ○児童が自ら、積極的に朝のボランティアを行っていた。また、清掃 に関してもいつも全員が一生懸命行っている姿が見られた。			
	4 みどりの少年団活動の活 性化	4について ○時期に応じて、全員で協力して栽培を行うことができた。 ●次年度は、みどりの募金活動などさらに活性化できるように積極的 に取り組んでいきたい。			
	5 自信と達成感の涵養	5について ○響座の今村さんの太鼓指導の下に、児童が一生懸命取り組み、太鼓 フェスティバルや西諸音楽大会などの発表会において、素晴らしい 演奏をすることができた。 ○担任の先生を中心に多くの作品投稿を行い、全員が必ず1つは入賞 したり、新聞に掲載したりすることができ、自信をもたせることが できた。			

	6 教育相談の充実	6について ○教育相談アンケートを行い、児童の人間関係把握、いじめの早期発見に努めた。 ○すこやか委員会(いじめ不登校対策委員会)を月1回は必ず実施し、児童の実態を共有することで、日々の学校活動に活かすことができた。		6について ○ 幸ヶ丘っ子はとてもやさしい子どもたちばかりです。
体 育	重点目標： 健やかな身体の育成 手段： 1 個に応じた体力向上の推進	1について ○持久走大会や縄跳び大会に向けて体力テストの練習に励み、それぞれの記録が向上し、技も上達した。 ●個人それぞれで体力差があるため、5%アップは難しかった。 ●体力向上のための活動を紹介して、授業や昼休みなどに行い、向上させたい。	2	2について ○ 今の子どもたちは家でゲーム、携帯などをしていて、外で遊んでいる子たちは少ないと思っています。だけど、幸ヶ丘小学校の子どもたちは、地域の方に見ていただいたりして、外で遊ぶことをよく見かけます。
	2 外遊びの推奨	2について ○児童が教師と共に毎週水曜日に必ず行っていた。これからもみんなが楽しくできるように続けていきたい。		6について ○ むし歯治療は、学校だけの問題ではないと思う。親が病院に連れて行かないと成り立たないので、啓発で十分である。
	3 基本的な生活習慣の定着	3について ○手洗いや消毒、換気については、養護助教諭を中心に徹底して行ったため、病気になる児童は少なかった。 ●生活習慣について集会での指導や保健だよりでの啓発を行っているが、なかなか定着できない。引き続き継続して指導することが必要である。		
	4 肥満率の解消	4について ○肥満率の解消について、指導を行い、少しずつ減少してきている。今後も継続して指導していきたい。		
	5 無欠席年間日数	5について ●2月中旬現在で、全員登校の日が104日となっている。日頃から保護者と連携しながら、児童が元気に学校に登校できるよう支援していきたい。		
	6 むし歯治療率向上	6について ●定期的に家庭への啓発は行っていたが、むし歯の治療率は66%にとどまり、100%には届いていない。更なる啓発が必要である。		
食 育	重点目標： 望ましい食習慣の育成 手段： 1 給食指導の充実	1について ○給食を残す児童はほとんどおらず残菜0であった。自分で食事量を上手に調整できている。 ●箸の持ち方については引き続き指導と家庭への啓発が必要である。	3	1について ○ 先月、給食のうずらの卵で死亡事故が発生したが、食べる時の指導にも力を入れてもらいたい。 たとえば、大きいものは切って食べる、よく噛んで食べる、くしのあるものはすわって注意して食べるとか・・・楽しいはずの給食が悲しい思い出となる児童もかわいそうすぎると思う。
	2 体験活動の充実	2について ○本年度は計画した授業がすべて行うことができ、多くの体験活動を通して食の関心を高めることができた。特に、モーモー教室や味覚の授業などの外部講師を利用した授業はとてもよかった。次年度も是非取り組んでいきたい。		○ うずらの卵の件を見ると、給食の素材の知識の指導ということも考えさせられた。
	3 家庭との連携 (弁当の日の実施)	3について ○夏休みの「食の贈り物」、遠足の日の弁当づくりや調理体験を実施することで、食への関心が少しずつ高まった。 ○養護助教諭が定期的に詳しく分かりやすい文書を発行して保護者への啓発と意識を高めることができた。 ●学校保健委員会でも、食育に関する内容が取り入れられるとよい。		
そ の 他	重点目標： 保護者や地域から信頼される安全・安心な学校づくり 手段： 1 小小・小中連携及び幼保小連携の推進 2 学校運営協議会の推進	1について ○西小林小学校との交流学習やかおる幼稚園との交流を行い、連携を図ることができた。 ○幼保小連絡協議会を行うことで、情報の共有を行った。	3	地域との交流 ○ 「じいちゃん、ばあちゃんが喜んでくれたからまた遊びに来た」と言って、思いがけない突然の可愛すぎる来訪者に施設の皆さんが喜ばれる。これからもこのような活動は、地域と学校で守っていかれたらと思います。
	3 防災教育の推進	2について ○1月分は都合により、開催できなかった。また、2月に行われる西小林中学校区連絡協議会も中止となった。今後はもっと意見を取り入れて、よりよい活動がさらにできるようにしていきたい。		3について ○ 防災教育が近年重要となっているので、避難訓練など進めてほしい。
	4 信頼される教職員の育成	3について ○4つの避難訓練(火災・地震・不審者・風水害)を確実に行うことができた。今後も継続して危機意識を高めたい。 ○学習発表会が延期となったため、急遽、防災に関する講話や防災グッズ・防災食体験等を行い、防災に対する意識を高めることができた。次年度も是非防災学習を積極的に行っていきたい。		○ 今年は地震が起こり、防災学習がとても勉強になりました。できるだけたくさんの方との交流が出来たら、子どもたちも安心して中学校に行けると思います。
		4について ○県のコンプライアンス通信と新聞記事、事例をもとに研修を行い、意識の向上に努めた。 ○今後も不祥事を出さないという意識を図っていきたい。		

次年度の方 向性 についての 校長所見	本年度は、学校教育目標を達成するために、学校経営ビジョンとして「『幸せ』いっぱい みんなの学校」を合言葉に、児童の居場所作りを念頭に教育活動を行ってきたが、次年度も方向性は同じで、「児童が幸せ、教師が幸せ、保護者・地域が幸せ」になるように、取り組んでいきたい。特に、本年度実施したICT教育や防災教育、食育の指導等については、さらに充実させていくとともに、やはり学力向上のために手立ての工夫を行ってきたい。また、小規模特認校でもあるので、一人一人を大切にしたい個別最適な授業の構築と魅力や特色ある学校づくりを行ってきたい。
------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------